

令和7年度

家政科2年次生用

シラバス



学校教育目標

志高く自らの可能性に挑戦し続け、社会でグローバルに活躍する人を育てる

育てたい生徒像

- 高い志で挑戦し、個性と能力を最大限に発揮できる生徒
- 未来を拓く8つの力を身につけ、グローバルな視点で社会に参画できる生徒
- 生涯にわたって主体的に学び、持続可能な社会の実現に向けて行動できる生徒

何ができるようになるか

たか高で身につける 《未来を拓く8つの力》

対話し
協働する力

相手を受容、対話を通して多様な他者と協働し、より良い社会づくりに参画する力
【全科共通】

志高く
挑戦する力

夢や志を持ち、一步前に踏みだして新しいことに挑戦し、成長する力
【全科共通】

自律し
やり抜く力

自分で考えて行動し、困難にも粘り強く立ち向かい成し遂げようとする力
【全科共通】

社会で生きる
教養力

社会の諸課題に対応するために必要な、生きて働く幅広い教養の力
【全科共通】

専門的で
高度な技術力

食物・被服・保育・福祉について体系的・系統的に理解し、生活の質の向上と社会の発展に役立つ力
【家政科】

情報を
活用する力

問問題解決に向けて、必要な情報を収集、整理、分析、表現する力
【全科共通】

論理的・批判的に
思考する力

物事を論理的に考え、批判的に掘り下げ、新しい価値を生み出すことができる力
【全科共通】

自分の考えを
表現する力

思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝えることができる力
【全科共通】

未来を拓く8つの力は、
学校教育全体で横断的に育みます

		教科											総 探	特 活
		国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	英語	家庭	福祉	情報	方 谷 学	行 事 等
未来を描く 知と技	社会で生きる教養力	○	○	○		○	○		○	○		○		
	専門的で高度な技術力									○	○			
課題発見・解決力	情報を活用する力		○			○	○				○	○	○	
	論理的・批判的に思考する力	○	○	○	○	○		○	○			○	○	
	自分の考えを表現する力			○	○	○		○	○				○	
未来を創る 実行力	対話し協働する力						○	○			○		○	○
	志高く挑戦する力						○		○	○			○	○
	自律しやり抜く力	○			○		○			○				○

何を学ぶのか

地域や世界をフィールドに、「伸びる、つながる、踏み出す」を支える学びのしかけで、「未来を拓く8つの力」を育みます

どのように学ぶのか

■「伸びる」を支える学びのしかけ

- 一人ひとりを大切にできる個別最適な学び【全科共通】
 - ・単位制による多彩な選択科目、少人数・習熟度別授業、個別指導
 - ・多彩な学習サポート：学習方法体験講座、教科力カウンセリング、サタデースクール、自習室開放等
- 地域に開かれたプロフェッショナルな学び【家政科】
 - ・地域の「プロによる授業」年間170時間
 - ・各種検定の資格取得：家庭科技術検定の複数取得
 - ・地域を学びのフィールドに「家政科展」

■「つながる」を支える学びのしかけ

- 地域と向き合うキャリア探究【全科共通】
 - ・キャリア探究プログラム「方谷学」
 - 「地域×課題探究」と「進路×生き方探究」の往還
- 世界とつながるグローバルな学び【全科共通】
 - ・海外姉妹校や大学等との連携
 - ・短期・中期交換留学やオンライン国際交流

■「踏み出す」を支える学びのしかけ

- 生徒が主役の主体的活動【全科共通】
 - ・文武不岐を实践する部活動
 - ・生徒自身の手で創る生徒会活動・学校行事・ボランティア活動、
 - ・資格・コンクール・国際交流等への挑戦

■個別最適で協働的な学び

- ・見通しを持って学び、振り返りを通して、主体的学習者へ
- ・基礎・基本を習得し、本質を捉え、原理原則から発展へ
- ・ICTによる未来の学び
 - 1人1台端末を活用し、主体的・対話的で深い学び
 - ICTを活用した文理横断的・探究的な学び
 - スタディサプリ等を活用し、学習の個性化

■将来や社会とつながるプロジェクト型の学び

- ・学んだ知識を関連づけて活用し、課題発見・解決へのアプローチ方法を身につける
- ・自ら設定した課題を、仲間と協働しながら探究し、新しい知や価値を創造する
- ・社会と自分の生き方を関連づけて考え、自律的に自身の進路を拓く

■体験を経験に変える主体的な学び

- ・自らねらいを持って体験し、考えて得た経験を積み重ねていく

たか高で身につける「未来を拓く 8 つの力」コモンルーブリック

「良く生きる」ために育てたい力

岡山県立高梁高等学校

学力概念	未来を描く知と技		課題発見・解決力			未来を創る実行力		
資質・能力 態度	社会で生きる 教養力	専門的で高度な 技術力	情報を活用する力	論理的・批判的に 思考する力	自分の考えを 表現する力	対話し 協働する力	志高く 挑戦する力	自律し やり抜く力
定義	社会の諸課題に対応するために必要な、生きて働く幅広い教養の力 【全科共通】	食物・被服・保育・福祉について体系的・系統的に理解し、生活の質の向上と社会の発展に役立つ力 【家政科】	問題解決に向けて、必要な情報を収集・整理、分析、表現する力 【全科共通】	論理的に考え、批判的に掘り下げ、新しい価値を生み出すことができる力 【全科共通】	思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 【全科共通】	相手を受容、対話を通して多様な他者と協働し、より良い社会づくりに参画する力 【全科共通】	夢や志を持ち、一歩前に踏みだして新しいことに挑戦し、成長する力 【全科共通】	自分で考えて行動し、困難にも粘り強く立ち向かい成し遂げようとする力 【全科共通】
レベル1	個別の知識・技能を知っている。	生活や社会で利用されている技術を知っている。	身近なところから課題に関する様々な情報を収集・整理し、情報の大体を捉え、表現できる。	情報や他者の意見を理解し、整理できる。	意見や考えを、話したり書いたりすることができる。	集団の中でルールを守り、自分に分担されたことができる。	指示されたことを行い、自分の将来の進路について考えることができる。	自分で学習や活動の目標を立てることができる。
レベル2	個別の知識・技能の意味を理解することができる。	生活や社会で利用されている技術について、基礎的な理論を理解することができる。	調査や資料等から情報を収集・整理し、情報の全体的な特徴や要点を捉え、自分の言葉でまとめ、わかりやすく表現できる。	課題やその解決のための内容を論理的に考えることができる。	意見や考えを、目的を意識して伝えたいことを明確にし、話したり書いたりすることができる。	集団の中で、仲間との対話を通して、自分の役割を見いだし、個性を生かして行動できる。	新しい環境や課題に挑戦しようとする気概を持ち、社会の抱える問題に目を向け、自分の適性を理解しようとしている。	学習や活動の目標と現実の差を把握し、目標達成のための計画を立てることができる。
レベル3	個別の知識・技能を、記憶し再生することができる。	生活や社会で利用されている技術について、基本的な技術を身につけている。	調査や実験・観察等から情報を収集・整理し、情報の傾向と変化を捉え、新たな考えや意味を見いだし、適切に表現できる。	課題やその解決のための内容を、根拠に基づいて、論理的に考えることができる。	意見や考えを、主張を支えるための根拠を持ち、話したり書いたりすることができる。	集団の中で自分とは異なる考え方を受容し、多様な仲間を支援することができる。	一歩前に踏みだし、新しい環境や課題に挑戦、自分と社会をより深く理解し、自分の適性を見極めることができる。	学習や活動のスケジュール・タイムマネジメントを意識し、努力することができる。
レベル4	個別の知識・技能を、共通の概念や原理に基づいて関連づけることができる。	学んだ理論や身につけた技術を発展させ、より高度な実習に取り組むことができる。	調査を設計し、メディアの特性を踏まえて、情報検索・検証、整理し、目的に応じて情報の傾向と変化を捉え、問題に対する解決策を考察し、効果的に表現できる。	課題やその解決のための内容を、共通点や相違点を指摘し、批判的に掘り下げて考えることができる。	意見や考えを、根拠と主張をつなぐ理由を明確にし、話したり書いたりすることができる。	集団の中でコミュニケーションを深め、連帯感を持って活動を進めることができる。	強い意志をもって取り組み、自分と社会のよりよい関わり方を考え、自分の将来を設計できる。	学習や活動を振り返り、必要に応じて改善し、次の行動につなげることができる。
レベル5	個別の知識・技能を、関連づけて構造化し、総合的に活用することができる。	よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、高い技術を工夫し、創造しようとしている。	調査を設計し、メディアの特性を踏まえて、情報検索・検証、整理し、目的に応じて情報の傾向と変化を捉え、問題に対する解決策を考察し、効果的に表現できる。	既存概念や常識にとらわれずに創造的に考え、新しい価値を生み出すことができる。	意見や考えを、説得力のある表現方法で発信し、他者の共感を得ることができる。	集団の中で互いに高め合う関係を構築、多様な仲間と協働し、より良い社会づくりに参画することができる。	社会をよりよくしようとする高い志を持ち、具体的な進路を明確にしている。	困難に試行錯誤しながら立ち向かい、たゆまぬ努力を続け、最後までやり抜くことができる。

各教科で主につける資質・能力に対する評価ルーブリック

	資質・能力 態度	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
国 語	社会で 生きる 教養力	読む・書く・話す技能の 基礎を学び、言語活動 に積極的に取り組もうと している。	語彙を増やそうと努力 し、場面に応じた言葉遣 いで表現をすることができ る。	言葉の持つ働きを理解し たうえで、文章中の情報 と情報の関係をとらえ、 学んだ知識を基に状況 に応じた対応や表現がで きる。	言葉の持つ働きを理解し たうえで、読解や表現の 技能を用い、情報を整 理・統合して意見を論理 的に発信できる。	言葉の持つ働きを理解し たうえで、文章や情報媒 体から得た多様な知識 を関連づけ、課題を的確 に分析・解決する力を発 揮し、他者と協働して深 い考察を導くことができ る。
	論理的・ 批判的に 思考する力	文章や意見を理解し、 要点を整理して他者に 分かりやすく伝えようと努 力する。	文章を論理的に読み解 き、簡潔にまとめて説明 し、問題解決の方向性 を示せる。	文章構成や主張を論理 的に分析し、課題に対す る具体的な解答を導き 出せる。	テキストの文脈や背景を 批判的に読み取り、事 実に基づく深い議論を展 開できる。	文学や情報を多面的に 分析し、新たな視点や独 自の解釈を創造的に提 示できる。
	自律し やり抜く力	自分で学習や活動の目 標を立てることができる。	学習や活動の目標と現 実の差を把握し、目標 達成のための計画を立て ることができる。	学習や活動のスケジュ ール・タイムマネジメントを意 識し、努力することができ る。	学習や活動を振り返り、 必要に応じて改善し、次 の行動につなげることが できる。	困難に試行錯誤しながら 立ち向かい、たゆまぬ努 力を続け、最後までやり 抜くことができる。
地 歴	社会で 生きる 教養力	現代世界の地域的特色 と日本及び世界の歴史 の展開に関して知ろうと している。	現代世界の地域的特色 と日本及び世界の歴史 の展開に関して理解す ることができる。	現代世界の地域的特色 と日本及び世界の歴史 の展開に関して理解す るとともに、調査や諸資料 から様々な情報を得よう としている。	現代世界の地域的特色 と日本及び世界の歴史 の展開に関して理解す るとともに、調査や諸資料 から様々な情報を適切 かつ効果的に調べること ができる。	現代世界の地域的特色 と日本及び世界の歴史 の展開に関して理解す るとともに、調査や諸資料 から様々な情報を適切 かつ効果的に調べ、それ をまとめることができる。
	情報を活用す る力、論理 的・批判的に 思考する力、 自分の考えを 表現する力	地理や歴史に関わる事 象の意味や意義、特色 や相互の関連を考察し ようとしている。	地理や歴史に関わる事 象の意味や意義、特色 や相互の関連を、概念 などを活用して考察しよ うとしている。	地理や歴史に関わる事 象の意味や意義、特色 や相互の関連を、概念 などを活用して多面的・ 多角的に考察することが できる。	地理や歴史に関わる事 象の意味や意義、特色 や相互の関連を、概念 などを活用して多面的・ 多角的に考察するとと もに、社会に見られる課題 の解決に向けて考えるこ とができる。	地理や歴史に関わる事 象の意味や意義、特色 や相互の関連を、概念 などを活用して多面的・ 多角的に考察するとと もに、社会に見られる課題 の解決に向けて考察し、 構想したことをまとめ効果 的に説明することができる。
	対話し協働す る力、志高く 挑戦する力、 自律しやり抜 く力	地理や歴史に関わる課 題に関する様々な情報を 収集・整理し、情報の 大体を捉え、表現すると ともに、情報や他者の意 見を理解し、整理でき る。	地理や歴史に関わる課 題に関する様々な情報を 調査や資料等から情報 を収集・整理し、情報の 全体的な特徴や要点 を捉え、論理的に自分の 言葉でまとめ、わかりやす く表現できる。	地理や歴史に関わる課 題に関する様々な情報を 調査や資料等から情報 を収集・整理し、情報の 傾向と変化を捉え、新 たな考えや意味を見いだ し、情報の全体的な特 徴や要点を捉え、課題 やその解決のための内容 を、根拠に基づいて、論 理的に考え表現すること ができる。	地理や歴史に関わる課 題に関する様々な情報を 調査や資料等から情報 を検索・検証、整理 し、目的に応じて情報の 傾向と変化を捉え、問題 に対する解決策を考察 し、効果的に表現し、課 題やその解決のための内 容を、共通点や相違点 を指摘し、批判的に掘り 下げて考えることができ る。	地理や歴史に関わる課 題に関する様々な情報を 調査や資料等から情報 を検索・検証、整理 し、目的に応じて情報の 傾向と変化を捉え、問題 に対する解決策を考察 し、効果的に表現し、既 成概念や常識にとらわれ ずに創造的に考え、新し い価値を生み出すことが できる。

各教科で主につける資質・能力に対する評価ルーブリック

	資質・能力 態度	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
公 民	社会で 生きる 教養力	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに課関わる現代の諸課題について知ろうとしている。	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに課関わる現代の諸課題について理解することができる。	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに課関わる現代の諸課題について理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を得ようとしている。	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに課関わる現代の諸課題について理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べることができる。	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに課関わる現代の諸課題について理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べ、それをまとめることができる。
	情報を活用する力、論理的・批判的に思考する力、自分の考えを表現する力	現代の諸課題について、事実を基に考察しようとしている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して考察しようとしている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察しようとしている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察するとともに、社会に見られる課題の解決に向けて考えることができる。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察するとともに、社会に見られる課題の解決に向けて考察し、構想したことをまとめ効果的に説明することができる。
	対話し協働する力、志高く挑戦する力、自律しやり抜く力	現代の諸課題に関する様々な情報を収集・整理し、情報の大体を捉え、表現するとともに、情報や他者の意見を理解し、整理できる。	現代の諸課題に関する様々な情報を調査や資料等から情報を収集・整理し、情報の全体的な特徴や要点を捉え、論理的に自分の言葉でまとめ、わかりやすく表現できる。	現代の諸課題に関する様々な情報を調査や資料等から情報を収集・整理し、情報の傾向と変化を捉え、新たな考えや意味を見だし、情報の全体的な特徴や要点を捉え、課題やその解決のための内容を、根拠に基づいて、論理的に考え表現することができる。	現代の諸課題に関する様々な情報を調査や資料等から情報を検索・検証、整理し、目的に応じて情報の傾向と変化を捉え、問題に対する解決策を考察し、効果的に表現し、課題やその解決のための内容を、共通点や相違点を指摘し、批判的に掘り下げて考えることができる。	現代の諸課題に関する様々な情報を調査や資料等から情報を検索・検証、整理し、目的に応じて情報の傾向と変化を捉え、問題に対する解決策を考察し、効果的に表現し、既存概念や常識にとらわれずに創造的に考え、新しい価値を生み出すことができる。
数 学	論理的・批判的に思考する力	問題を与えられたとき、解法や背景を理解できず、指導がないと進めることが困難である。	簡単な問題には取り組めるが、複雑な問題や新しい視点が加わるとつまずきやすい。	解法や背景を理解し、標準的な問題に対して適切に論理的なアプローチを取ることができる。	問題のパターンを越えて、自ら問いを立てたり、新たな解法を考えることができる。	自分や他者の解法を批判的に検討し、新しい視点を提案するなど、深い思考をもとにした議論ができる。
	自分の考えを表現する力	自分の考えを他者に説明することが難しく、言葉や記述に矛盾が多い。	簡単な説明は可能だが、複雑な問題になると不正確な部分や不十分な記述が目立つ。	表現力に改善の余地があるが、数学的に正確かつ明確な説明ができる。	数学的記述や図表を使い、他者にも理解しやすい形で自分の考えを適切に伝えることができる。	他者の誤解を解消する説明や、より分かりやすい表現に改良する提案ができる。
	自律しやり抜く力	取組の途中で諦めやすく、外部からの指示がないと進めることが困難である。	簡単な課題には取り組めるが、困難に直面すると進行が止まりやすい。	困難な課題に対しても粘り強く取り組み、必要に応じて周囲に助けを求めながら達成を目指すことができる。	目標達成のために計画を立て、必要な調整を行いながら最後までやり抜くことができる。	自ら新しい目標を設定し、他者を巻き込みながら困難を克服し、持続的に取り組むことができる。

各教科で主につける資質・能力に対する評価ルーブリック

	資質・能力 態度	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
理 科	社会で 生きる 教養力	科学知識がほとんど身につけておらず、社会との関連性を理解していない。	科学知識を断片的に理解しているが、社会とのつながりを意識していない。	科学知識を理解し、社会生活との関連性のある程度認識している。	科学知識を理解し、社会や日常生活に活かす方法について考えられる。	科学知識を深く理解し、社会問題の解決や未来の展望について考え、実践的に応用できる。
	情報を 活用する力	必要な情報を収集・整理することができない。	指示があれば情報収集や整理ができるが、不正確な点が多い。	必要な情報を収集・整理し、基本的な分析ができる。	適切な情報を収集・整理し、目的に合わせて効果的に活用できる。	多角的な情報を収集・整理し、高度な分析や評価を行い、新しい視点を見つけることができる。
	論理的・ 批判的に 思考する力	根拠のない考えや意見が多く、論理的に考えることができない。	論理的に考えようとするが、筋道が不明確で根拠が不足している。	論理的に考え、根拠に基づいて意見や答えを示すことができる。	根拠に基づき、筋道を立てて論理的に考え、批判的な視点を持つことができる。	論理的・批判的に物事を考え、複数の視点から深く分析し、新しいアイデアを導き出せる。
	自分の 考えを 表現する力	自分の考えや意見をほとんど表現できない。	考えや意見を表現しようとするが、内容が曖昧でわかりづらい。	自分の考えを簡潔に表現し、基本的な説明ができる。	論理的に自分の考えや意見を分かりやすく説明し、具体例を示すことができる。	論理的かつ説得力のある形で自分の考えを表現し、他者にも影響を与えることができる。
保 健 体 育	社会で 生きる 教養力	健康や運動に関する基礎的な知識を覚え、学びを深めようとしている。個別の知識・技能を知っている。	健康・安全に関する主要な知識を習得し、それを自分の言葉で説明することができる。	健康の保持増進や運動技能に関する基本的な知識を正確に理解し、日常生活に応用できる。	健康や運動の知識を応用して、課題解決のための具体的な計画を立案・説明できる。	健康や安全、体力づくりに関する幅広い知識を結びつけ、具体的な生活改善策を提案し、実践できる。
	情報を 活用する力	健康や運動に関する情報を収集し、その概要を理解することができる。	健康や運動の基本的な情報を調べ、それをわかりやすく説明することができる。	健康や運動に関する情報を適切に整理し、生活改善に役立てることができる。	信頼できる情報をもとに、健康維持や体力向上のための具体的なアプローチを提案できる。	健康や運動のデータを収集・分析し、効果的な運動計画を作成して実行・評価できる。
	対話し 協働する力	グループでの活動に参加し、与えられた役割を遂行することができる。	自分の役割を理解し、他者と協力して基本的な目標を達成することができる。	他者の意見を尊重しながら、協力して課題を解決することができる。	集団活動の中で積極的に意見を出し合い、連携して成果を高めることができる。	チーム内で多様な意見を調整しながら、協力して運動目標を達成できる。
	志高く 挑戦する力	健康や運動に関する課題に取り組み、指導を受けながら努力している。	運動や健康に関する新しい課題に挑戦し、自己改善の努力をしている。	新しい運動や挑戦的な課題に積極的に取り組み、目標達成に向けた努力を続けている。	健康や運動に関する目標に向けて積極的に取り組み、自己成長を追求している。	健康的な生活やスポーツ活動の実践を通じて、社会に貢献する具体的な目標を立て、行動している。
	自律し やり抜く力	健康や運動に関する目標を設定し、計画を立てて実践に取り組んでいる。	自分の目標を把握し、達成に向けた具体的な手順を考えて実行している。	運動や健康維持の計画を立て、実行と見直しを継続的に行うことができる。	自己の活動を評価し、改善点を反映させながら次の課題に挑戦している。	計画的に目標を設定し、困難を乗り越えて粘り強く達成することができる。

各教科で主につける資質・能力に対する評価ルーブリック

	資質・能力 態度	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
芸 術	論理的・批判的に 思考する力	芸術作品や表現に対する他者の意見を理解し、自分の考えを簡潔にまとめることができる。	芸術作品や活動の意義を論理的に説明し、わかりやすく説明することができる。	芸術作品や表現の意義を論理的に説明し、自分の意見を明確に伝えることができる。	芸術作品の背景や意図を深く掘り下げ、批評的に考察し自らの見解を表現できる。	芸術作品を批判的に分析し、新たな視点や意義を見出し、斬新な解釈を提案できる。
	自分の 考えを 表現する力	簡単な表現を用いて、自分の意図を作品や言葉で伝えることができる。	芸術表現を通じて、自分の考えや感情を明確に伝えることができる。	作品を通じて自分の考えを伝えるための構造的な表現を行うことができる。	主張を明確にし、芸術作品やプレゼンテーションで論理的に意図を表現できる。	高度な表現力で独自の視点を示し、感情や意見を効果的に伝え共感を得ることができる。
	対話し 協働する力	創作活動において与えられた役割を果たし、グループでの活動に参加することができる。	創作活動での役割を理解し、協力して成果を出すために努力することができる。	他者の意見を理解し、協力して創作活動や課題解決に取り組むことができる。	共同制作や意見交換を通じて、集団の意見をまとめ成果を高める力を示すことができる。	共同制作など集団で芸術活動を行い、多様な視点を尊重しながら目標を達成することができる。
英 語	社会で 生きる 教養力	知識・技能を知っており、限られた状況でのみ使用できる。	知識・技能の意味を理解し、簡単な状況で使用することができる。	知識・技能を記憶し、基本的な状況で再生し、理解に支障なく使用できる。	知識や技能を共通の概念や原理に基づいて関連付け、状況に応じて効果的に活用できる。	知識や技能を高度に関連付け、複数の概念を組み合わせて問題解決や応用ができる。
	論理的・批判的に 思考する力	リスニングやリーディングで得た情報を整理し、簡単に伝えることができる。	リーディングやリスニングで得た情報を基に簡単な論理的結論を導くことができる。	リスニングやリーディングから得た情報を整理し、論理的に考察することができる。	リーディングやリスニングで得た情報を比較・対照し、論理的に考察することができる。	リスニングやリーディングを通じて得た情報を批判的に分析し、創造的にアイデアを展開できる。
	自分の 考えを 表現する力	スピーキングやライティングで、基本的な意見や考えを伝えることができる。	スピーキングやライティングで、意見や考えを目的に応じて伝え、簡単に説明することができる。	意見や考えを、スピーキングやライティングで簡潔に表現し、主張を支えるための根拠を提示することができる。	自分の意見や考えを、スピーキングやライティングで論理的に伝え、根拠と主張を明確に結びつけることができる。	明確で説得力のある表現を用いて、スピーキングやライティングで自分の意見や考えを伝え、他者の共感を得ることができる。
	志高く 挑戦する力	英語学習において自分の目標設定し、計画を立てて取り組んでいる。	英語学習における目標と現実のギャップを把握し、達成に向けた具体的な計画を建てることできる。	英語学習や活動を計画的に進め、適切にタイムマネジメントできる。	英語を学びながら自己評価を通じて改善点を見つけ、次の行動に繋げることができる。	英語で困難な課題に立ち向かい、粘り強く努力を続け、最終的な目標を達成することができる。
家 庭	社会で 生きる 教養力	家庭に関する知識・技能を知っている。	家庭に関する知識・技能の意味を理解することができる。	家庭に関する知識・技能を活かし、状況に応じた対応をすることができる。	家庭に関する知識・技能を、生活と関連づけることができる。	家庭に関する知識・技能を理解したうえで、多様な生活環境を的確に分析し・解決することができる。
	専門的で 高度な 技術力	生活や社会で利用されている技術を知っている。	生活や社会で利用されている技術について、基礎的な理論を理解することができる。	生活や社会で利用されている技術について、基本的な技術を身につけている。	学んだ理論や身につけた技術を発展させ、より高度な実習に取り組むことができる。	よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、高い技術を工夫し、創造しようとしている。
	志高く 挑戦する力	指示されたことを行い、自分の課題について考えることができる。	自分の適性を理解し、課題に取り組むことができる。	一歩前に踏みだし、新しい環境や課題に挑戦、自分の適性を見極めることができる。	強い意志をもって取り組み、自分と社会のよりよい関わり方を考え、自分の課題を考えながら解決することができる。	高い志を持ち、具体的な課題を解決すること方法を自らの力で明確にしている。
	自律し やり抜く力	自分で学習や活動の目標を立てることができる。	学習や活動の目標と現実の差を把握し、目標達成のための計画を立てることができる。	学習や活動のスケジュール・タイムマネジメントを意識し、努力することができる。	学習や活動を振り返り、必要に応じて改善し、次の行動につなげることができる。	困難に試行錯誤しながら立ち向かい、たゆまぬ努力を続け、最後までやり抜くことができる。

各教科で主につける資質・能力に対する評価ルーブリック

	資質・能力 態度	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
福 祉	専門的で 高度な 技術力	生活や社会で利用されている技術を知っている。	生活や社会で利用されている技術について、基礎的な理論を理解することができる。	生活や社会で利用されている技術について、基本的な技術を身につけている。	学んだ理論や身につけた技術を発展させ、より高度な実習に取り組むことができる。	よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、高い技術を工夫し、創造しようとしている。
	情報を 活用する力	身近なところから課題に関する様々な情報を収集・整理し、情報の大体を捉え、表現できる。	調査や資料等から情報を収集・整理し、情報の全体的な特徴や要点を捉え、自分の言葉でまとめ、わかりやすく表現できる。	調査や観察等から情報を収集・整理し、情報の傾向と変化を捉え、新たな考えや意味を見だし、適切に表現できる。	調査を設計し、メディアの特性を踏まえて、情報検索・検証、整理し、目的に応じて情報の傾向と変化を捉え、問題に対する解決策を考察し、効果的に表現できる。	調査を設計し、メディアの特性を踏まえて、情報検索・検証、整理し、目的に応じて情報の傾向と変化を捉え、問題に対する解決策を考察し、効果的に表現できる。
	対話し 協働する力	集団の中でルールを守り、自分に分担されたことができる。	集団の中で、仲間との対話を通して、自分の役割を見だし、個性を生かして行動できる。	集団の中で自分とは異なる考え方を受容し、多様な仲間を支援することができる。	集団の中でコミュニケーションを深め、連帯感を持って活動を進めることができる。	集団の中で互いに高め合う関係を構築、多様な仲間と協働し、より良い社会づくりに参画することができる。
情 報	社会で 生きる 教養力	情報技術や知識を覚えようと努力し、基礎的な内容を学び始めている。	情報技術の主要な概念や用語を理解し、基本的な知識を自分の言葉で説明することができる。	基本的な情報技術や知識を正確に理解し、場面に応じて適切に活用することができる。	情報技術や知識に関連付けて整理し、課題解決に向けた具体的な提案を理論的に説明できる。	複数の情報技術やデータ分析手法を統合し、課題解決に活用できる。他者と協力しながら社会的課題に対する効果的な提案を行うことができる。
	情報を 活用する力	情報を身近な課題に活用し、その要点を簡単にまとめることができる。	情報を収集し、自分の言葉で要点を説明することができる。	情報を整理して必要なデータを抽出し、課題解決に役立てることができる。	情報を効率よく収集し、適切に整理・分析して課題に対する具体的な解決策を提案できる。	情報を収集・分析し、視覚化や統合を通じて新しい知見を生み出し、課題解決に活用できる。
	論理的・ 批判的に 思考する力	他者の意見や情報を理解し、論理的に整理して伝えることができる。	課題の解決方法を論理的に考え、具体的な手順を説明できる。	論理的に課題を整理し、解決策を明確に示すことができる。	事実に基づいて課題を深く掘り下げ、批判的に評価・分析できる。	プログラム設計やデータ分析を通じて新たな視点を提案し、課題解決に向けた創造的な提案を行うことができる。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
国語		文学国語（文学国語）	2	家政科	2
教材・副教材		文学国語（東京書籍） 頻出漢字マスター3000（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
科目の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ○深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に着目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること			
講座内容		※この授業は、通期、一斉授業、2・3年継続履修です。 ○情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ○文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引きつける独創的な文章になるよう工夫する力を身につける。 ○文章の種類を踏まえて、内容や構成・展開・描写の仕方などを的確に捉える能力を育成する。 ○人間・社会・自然などに対するものの見方・感じ方・考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：様々な分野のテキストを通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につける。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとし、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法		○授業態度の観察 ○定期考査 ○小テスト ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○課題の点検 ○発表態度の観察	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○発表態度の観察	

年間指導計画			
期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	随筆 小説1	○随筆につづられている筆者の感じ方や思いを読み取り、ものの見方を広げる。 ○登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。 ○評論に述べられた内容を的確に理解し、「言葉」の意義や特質について考える。 ○小説を読み、そこに込められた寓意や描かれた人々の姿から、生きることへの考えを深める。 ○詩歌や俳句と、俳句に関する評論を読み、詩歌の表現の特色を理解して味わう。 ○小説における場面展開や、人物の性格・心理の描写を読み取る。 ○具体例や引用と筆者の主張との関係に注意して評論を読み、文学の価値や意義について考える ○物語の展開や状況の変化に注意して小説を読み、現代の社会や自らの生活を捉え直す。
	第2回	評論1 小説2	
	第3回	詩歌 小説3	
後期	第4回	評論2	
	第5回	小説4	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
国語		国語表現（国語表現）	2	家政科	2
教材・副教材		国語表現 改訂版（大修館書店） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
科目の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ○実社会に必要な国語の知識・技能を身につけるようにする。 ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること			
講座内容		※この講座は、通年、一斉授業、2・3年継続履修です。 ○自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する力を培う。 ○相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫する力を身につける。 ○社会的な話題や自己の将来などを題材に、自分の思いや考えについて、的確な表現や語句を用いて書く能力を育成する。 ○自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：様々な分野のテキストを通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につけ、現代の諸課題を知る。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」「読むこと」の各領域において、社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、効果的に使おうとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検	○授業態度の観察 ○ワークシート ○課題の点検	

年間指導計画			
期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	書いて伝える 小論文・レポート入門	○わかりやすく読みやすい、整った文章を書く力を身につける。 絵や写真をもとに、相手に正確に伝わる文章を書く力を見につける。 ○情報を収集・分析し、自分の考えを深め、それを効果的に伝えられるよう、論理の構成、文体などについて学ぶ。 ○自分の過去や現在を見つめ、将来に向けての展望をもつ。 自分の特長を他者に的確に伝える力を身につける。 ○メディアによる特性・特徴の違いについて理解する相手や目的に応じてメディアを選択し、効果的に表現する。 ○目的に応じて情報を整理し、内容や表現のしかたを工夫して話したり聞いたりする。聞くことを通じて表現のしかたの工夫について理解し、自らの表現に役立てる。 ○場に応じた適切な表現や、目的に応じた効果的な表現を意識して、話したり聞いたりする。相手の考えを尊重しながら自らの考えを主張し、論拠の妥当性を判断しながら話し合う。
	第2回	自己PRと面接	
	第3回	メディアを駆使する	
後 期	第4回	声とコミュニケーション	
	第5回	会話・議論・発表	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
国語		古典探究（古典探究）	2	家政科	2
教材・副教材		新編 古典探究（東京書籍） 新修 古典文法（京都書房） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
科目の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること			
講座内容		※この授業は、通期、一斉授業、2・3年継続履修です。 ○古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○古典の作品や文章の種類やその特徴、構成や展開の仕方、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。 ○作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：我が国特有の言語文化を通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につけ、伝統を重んじる素養を身につける。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法		○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検	○授業態度の観察 ○ワークシート ○課題の点検	

年間指導計画			
期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	説話1（古文） 小話（漢文） 歌物語（古文）	○説話を読み展開や内容のおもしろさを味わう。 ○話の展開や内容のおもしろさを味わう。 ○作品中の和歌が持つ意味に着目し、歌物語の特色を理解する。 ○漢詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。 ○随筆に書かれている情景や出来事を的確に捉える。 ○『史記』を読み、歴史上の人物の行動や心情について考える。 ○朗読などを通して、軍記物語の内容や表現の特色への理解を深める。 ○儒家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。 ○発想や表現の特色を理解し、小説のおもしろさを味わう。 ○日記を読み、作者の境遇や出来事を的確に捉える。 ○作り物語の内容を的確に読み取り、登場人物の行動や心情を捉える。 ○詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わう。 ○作品の特色に注意しながら、歴史物語の内容を的確に読み取る。 ○道家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。 ○文章の構成や展開を理解し、論旨を的確に捉える。
	第2回	詩1（漢文） 随筆1（古文） 史記1（漢文） 軍記物語（古文）	
	第3回	思想1（漢文） 小説1（漢文） 日記1（古文）	
後期	第4回	作り物語1（古文） 詩2（漢文）	
	第5回	歴史物語1（古文） 思想2（漢文） 文1（漢文）	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
国語		現代語入門（現代語入門）	1	家政科	2
教材・副教材		パスポート国語必携 国語常識の演習と確認（桐原書店） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
科目の目標		国語を的確に理解し適切に表現するために必要な言語の知識・技能を身につけさせるとともに、言語に対する関心を高め、現代の国語の向上を図る態度を育てる。			
講座内容		※この授業は、通期、一斉授業、2・3年継続履修です。 ○語句の意味、用法を理解し、語彙を豊かにすること。 ○文章や文の組み立て、語句の働き、表記の仕方などを身につけること。 ○漢字や漢語の特質を理解し、常用漢字の読み書きに習熟すること。 ○場面や状況・目的に応じた言葉遣いができるようにすること。 ○論理的に物事を考える力とその表現力を身につけること。 ○自己を知ることとその魅力が伝わるような表現力を身につけること。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：様々な分野のテキストを通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につけ、現代の諸課題を知る。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	国語を的確に理解し適切に表現するために必要な言語の知識・技能を身につけている	国語を的確に理解し適切に表現している。	言語に対する関心を高め、現代の国語の向上を図ろうとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検	○授業態度の観察 ○ワークシート ○課題の点検	

年間指導計画			
期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	常用漢字 同音語・同訓語 対義語	○漢字や漢語の特質を理解し，常用漢字の読み書きに習熟し，的確な語句や表現を用いて書く能力を身につける。
	第2回	対義語 類義語 漢語	○語句の意味，用法を理解することを通して，語感を磨き語彙を豊かにする。 ○語句の知識を活用して，文章や文の組み立て，語句の働きなどを身につける。
	第3回	熟語 現代用語・カタカナ語	○現代の国語の成り立ちや特質，言語の役割などについて理解を深める。
後 期	第4回	慣用句 ことわざ 故事成語	
	第5回	文章中の語句 語句を適切に使った文章表現	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
公民		公共（公共）	2	家政科	2
教材・副教材		高等学校公共（第一学習社） フォーラム公共（とうほう）			
科目の目標		人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ○現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ○よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。 ※人間と社会の在り方についての社会的な見方・考え方 社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としてのあり方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や論理などと関連付けて考える。			
講座内容		※この授業は、通期、一斉授業です。 ○現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するために必要な概念や理論について理解する。諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 ○現実社会の諸課題の解決に向けて、公共的な空間における基本的原理を活用し、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画に向けて議論する力を養う。 ○よりよい社会の実現に向けて、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間で主権を担う公民として、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。 ■<u>未来を拓く8つの力の育成場面</u> ○社会で生きる教養力：社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念・理論など）に着目して捉える。 ○論理的・批判的に思考する力：「幸福、正義、公正」といった視点を必要に応じて組合せながら、人間と社会のあり方についての見方・考え方を働かせる。 ○自分の考えを表現する力：現代社会の諸問題を題材として、よりよい社会の構築を目指して他者と意見交換を重ねながら、自分の考えを整然と説明する。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力	情報を活用する力、論理的・批判的に思考する力、自分の考えを表現する力	対話し協働する力、志高く挑戦する力、自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から論理的主体などとして活用するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができた。	現代社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養うことができた。	現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深めることができた。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○定期考査○発問評価	○定期考査○グループディスカッション	○振り返りシート○授業参加の態度	

年間指導計画			
期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	○導入 1 公共的な空間と人間のかかわり ○導入 2 人間としてのあり方生き方 ○導入 3 選択の手がかりとなる倫理的価値 ○導入 4 自立した主体 ○導入 5 公共的な空間づくりを目指して	○公共的な空間において、社会に参画するための自立した主体となることの意義を考える。 ○人間と社会のあり方を考察・構想するのに必要な「幸福・正義・公正」といった価値基準を身に付ける。
	第2回	○主題 1 法と規範の意義と役割 1 法と基本的人権 2 自由平等と法規範 ○主題 2 契約と消費者の権利・責任 1 契約と法 2 消費者の権利と責任 ○主題 3 司法参加の意義 1 裁判所と人権保障 ○主題 4 政治参加と公正な世論の形成 1 選挙の意義と課題 2 政治参加と世論形成 3 立法と行政 4 地方自治と住民の福祉 ○主題 5 国際社会と国家主権 1 国際法、領土問題 2 国際連合の役割と課題	○身の周りの偏見・差別、不平等といった問題について理解し、その解決に向けて考察する。 ○個人や社会の紛争を法に基づき解決するしくみと国民が果たすべき責任を理解する。 ○対等な当事者間の合意にもとづく契約が、なぜ必要なのかを理解する。 ○選挙の意義や課題、世論の形成や政党の役割や主権者である国民と国会・内閣の関係、地方自治の役割を理解する。 ○国際社会はどのように成立しているのか理解し、領土問題の現状・国際連合の取組みを考える。
	第3回	○主題 6 日本の安全保障と防衛 1 平和主義と安全保障 2 核兵器の廃絶 ○主題 7 国際社会の変化と日本の役割 1 今日の国際社会 2 人種民族問題と地域紛争 3 国際社会における日本の役割 ○主題 8 雇用と労働問題 1 私たちと経済 2 労働者の権利と労働問題 ○主題 9 社会の変化と職業観 1 産業構造の変化と課題 2 企業の活動 3 農林水産業の現状とこれから	○日本の安全保障体制の変容とその背景にある国際社会の変化を理解し、軍縮や核兵器の廃絶に向けて何が必要かを考える。 ○国際社会における必要な日本の役割を理解し、人種・民族問題と地域紛争の背景・現状を踏まえ、私たちに何ができるかを考える。 ○グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどのように考えていけば良いかを考える。
後期	第4回	○主題10 市場経済の機能と限界 1 市場経済の経済運営 2 市場経済のしくみ 3 経済発展と環境保全 4 経済成長と国民福祉 ○主題11 金融の働き 1 金融の意義や役割 ○主題12 財政の役割と社会保障 1 政府の経済的役割と租税の意義 2 社会保障と国民福祉	○需要・供給の関係を通し、公正で自由な資源配分を実現できるしくみを理解する。経済活動から、豊かに暮らすための指標について考える。 ○金融市場や中央銀行が経済にどのような役割を果たしているかを理解し投資の意義を考える。 ○少子高齢化が進む中、財政や社会保障を持続可能なものにするために政府はどのような役割を果たしていくべきか、その課題を含め考える。
	第5回	○主題13 経済のグローバル化 1 国際分業と国際貿易 2 国際収支と為替相場 3 経済のグローバル化 4 地域的経済統合 5 貧困や格差 6 地球環境問題 7 資源・エネルギー問題 8 国際社会のこれから 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私	○経済のグローバル化や、地域経済統合の動きを通して、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきかを考える。 ○持続可能な社会、公共の精神をもった自立する主体となることに向けて、幸福・正義・公正などに着目して現代の諸課題を探究する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
数学		数学Ⅱ（数学Ⅱ）	2	家政科	2
教材・副教材		新 高校の数学Ⅱ（数研出版） ポイントノート数学Ⅱ（数研出版）			
科目の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って、考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 ※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。			
講座内容		※この授業は、通期、一斉授業です。 ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで、授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し、まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し、対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では、学習したことを振り返り、繰り返し演習することで、知識を定着させる。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○いろいろな式、図形と方程式および三角関数の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	○数の範囲や式の性質に着目し等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート	

年間指導計画			
期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第1章 複素数と方程式 第1節 式の計算 1. 式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 分数式の計算	○多項式の乗法・除法および分数式の四則演算について理解できるようにする。
	第2回	第2節 複素数と方程式 1. 複素数 2. 2次方程式の解と判別式 3. 解と係数の関係 4. 多項式のわり算 5. 因数定理 6. 高次方程式	○数の範囲を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の計算ができるようにする。また、複素数を用いて、2次方程式やその解についてより一般的に考察できるようにする。
	第3回	第3節 式と証明 1. 等式の証明 2. 不等式の証明 第2章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係	○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 ○座標や式を用いて、直線の性質や関数を数学的に表現しその有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
後 期	第4回	第2節 円 1. 円の方程式 2. 円と直線 3. 軌跡 4. 不等式と領域	○座標や式を用いて円の性質や関係を数学的に表現し、それらの有用性を認識する。図形を与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、事象の考察に活用できるようにする。
	第5回	第3章 三角関数 1. 三角比 2. 一般角 3. 三角関数 4. 三角関数の相互関係 5. 三角関数の性質 6. 三角関数のグラフ	○角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
数学		数学 A（数学 A）	1	家政科	2
教材・副教材		新高校の数学 A（数研出版） ポイントノート数学 A（数研出版）			
科目の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見だし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見だし，数理的に考察する力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 ※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え，論理的，統合的・発展的，体系的に考えること。			
講座内容		※この授業は，通期，選択授業です。 ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで，授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し，まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し，対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では，学習したことを振り返り，繰り返し演習することで，知識を定着させる。 ■未来を拓く 8 つの力の育成場面 ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し，思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し，統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し，数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて，粘り強く，柔軟に考え，その過程を振り返り，考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く 8 つの力との関連		社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○場合の数と確率，図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	○不確実な事象に着目し確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，図形の構成要素間関係などに着目し図形の性質を見だし，論理的に考察する力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善しようとしたりしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート	

年間指導計画			
期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1. 集合 2. 集合と要素の個数 3. 和の法則と積の法則	○場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第2回	4. 順列 5. 組合せ	
	第3回	第2節 確率 1. 事象と確率 2. 確率の計算 3. 独立な試行と確率	○確率の意味と確率を求めるときの基本的な法則や考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
後 期	第4回	4. 条件付き確率 5. 期待値	○平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第5回	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1. 図形の基本 2. 角の二等分線と線分の比 3. 三角形の外心、内心、重心	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
理科		物理基礎（物理基礎）	2	家政科	2
教材・副教材		高等学校 物理基礎（第一学習社）			
科目の目標		物体の運動と様々なエネルギーに関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して，物体の運動とエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら，物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。 (2) 観察・実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 (3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。 ※ 理科の見方・考え方 自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。			
講座内容		※ この授業は，通期，一斉授業です。 ○様々な現象について観察，実験などを通して，規則性や関係性を見いだして表現できるようにする。 ○日常現象に興味を持ち，複雑な物理現象について理解できるようになる。 ○これまでに得た知識を用いて，日常生活や社会を支えている科学技術に興味・関心をもつことができるようになる。 ■ <u>未来を拓く8つの力の育成場面</u> ○社会で生きる教養力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。 ○情報を活用する力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。 ○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。 ○自分の考えを表現する力：実験での班活動，普段の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○斜面上をくだる台車の運動や，台車を一定の力で引く実験などを行い，様々な運動の法則性を理解することができる。 ○運動を表す式や法則を用いて，問題を解くことができる。 ○実験器具の使い方や方法を理解し，創意工夫を凝らし実験を行うことができる。	○静止している物体や，運動している物体のようすを図や矢印で表し，それらから式や法則を見出すことができる。 ○実験結果をデータや式，グラフにまとめ，自分の考えを述べることができる。また，データやグラフを解析し，法則性や関係を見出すことができる。	○身のまわりの疑問を見つけ，それがどのように引き起こされるかを問い，探究していく態度を育むことができる。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○定期考査 ○実験	○定期考査 ○実験書	○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題	

年間指導計画			
期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動	①速さと速度のそれぞれの特徴を学習し、直線上の運動における速度の合成や相対速度を理解する。 ②物体が直線上を運動する場合の加速度について理解し、一定の加速度で運動するようすを式やグラフで表す。 ③物体が落下するときの運動の特徴について学習し、運動のようすを式やグラフで表す。
	第2回	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第2節 力と運動の法則	①物体にさまざまな力がはたらくことを理解する。 ②力の合成、分解を学習し、物体にはたらく力のつりあいを理解する。 ③物体を一定の力で引く実験などを行い、運動の3法則を理解する。
	第3回	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第2節 力と運動の法則 第3節 仕事と力学的エネルギー	①物体に摩擦力や浮力がはたらくときの運動を理解する。 ②物理における仕事の意味を学習し、仕事の原理、仕事率について理解する。 ③運動エネルギー、位置エネルギーについて、仕事と関連づけて理解する。 ④力学的エネルギー保存の法則についての実験などを行い、仕事と関連づけて理解する。
後期	第4回	第Ⅱ章 熱 第1節 熱とエネルギー	①熱と温度について、原子や分子の熱運動の観点から理解する。 ②熱に関する実験などを行い、熱容量、比熱、熱量の保存などを理解する。
	第5回	第Ⅲ章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波 第Ⅳ章 電気 第1節 静電気と電流 第2節 電流と磁場 第3節 エネルギーとその利用	①ばねやひもなどを用いて波が伝わるようすを観察し、波の波長、振動数、波の伝わる速さなど、波の基本的な特徴を理解する。 ②波動実験器などを用いて、波の重ね合わせや独立性、定常波、波の反射について理解する。 ③気柱の共鳴に関する実験などを行い、気柱の共鳴と音源の振動数を関連づけて理解する。 ④電磁波の特徴を学び、電磁波が現代の社会生活に広く利用されていることを理解する。 ⑤放射線の種類と性質、放射性物質の基本的な性質、および原子力の利用とその課題について理解する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
理科		化学基礎（化学基礎）	2	家政科	2
教材・副教材		○新編 化学基礎（数研出版） ○新編 化学基礎 準拠整理ノート（数研出版）			
科目の目標		日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
講座内容		※この授業は、通期、一斉授業です。 ○化学と人間生活とのかかわりについて関心を高め、化学が物質を対象とする科学であることや化学が人間生活に果たしている役割を理解させるとともに、観察、実験などを通して物質を探究する方法の基礎を身に付けさせる。 ○原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解させる。また、物質の性質について観察、実験などを通して探究し、化学結合と物質の性質との関係を理解させ、物質について微視的な見方ができるようにする。 ○化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応について観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する基本的な概念や法則を理解させるとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。 ○情報を活用する力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。 ○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。 ○自分の考えを表現する力：実験での班活動、普段の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○定期考査 ○観察・実験	○観察・実験	○授業態度 ○課題	

年間指導計画			
期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	I 化学と人間生活 1 化学とは何か 2 物質の成分と構成元素	○日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ○物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
	第2回	II 物質の構成 1 原子の構造と元素の周期表	
	第3回	II 物質の構成 2 化学結合	
後 期	第4回	III 物質の変化 1 物質と化学反応式 2 酸と塩基	
	第5回	III 物質の変化 3 酸化還元反応 4 化学が拓く世界	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
理科		生物基礎（生物基礎）	2	家政科	2
教材名・副教材名		i 版 生物基礎（啓林館） Navi&トレーニング 新訂版 生物基礎（啓林館）			
科目の目標		生物や生物現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生物現象について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ○観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 ※理科の見方・考え方 自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。			
講座内容		※この授業は，通期，選択授業です。 ○生物の特徴について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技術を身につけ，観察，実験を通して探究し，多様な生物な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現すること。 ○ヒトの体の調節について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技術を身につけ観察，実験を通して探究し，神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現すること。 ○生物の多様性と生態系について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技術を身につけ観察，実験を通して探究し，生態系における，生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現すること。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。 ○情報を活用する力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。 ○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。 ○自分の考えを表現する力：実験での班活動，普段の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高くで挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 ○生物に関する概念や法則を理解し，問題を解くことができる。 ○実験器具の使い方や方法を理解し，創意工夫を凝らし実験を行うことができる。	○生物や生物現象から問題を見だし，見通しをもって観察，実験などを行い，式や法則を見出すことができる。 ○実験結果をデータや式，グラフにまとめ，自分の考えを述べることができる。 また，データやグラフを解析し，法則性や関係を見出すことができる。	○身のまわりの疑問を見つけ，それがどのように引き起こされるかを問い，探究していく態度が身についている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○定期考査 ○実験書	○定期考査 ○実験書	○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題	

年 間 指 導 計 画			
期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第 1 部 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性	生物の特徴について、その特徴、遺伝子とその働きを理解すると共に、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。
	第2回	第 2 部 エネルギーと代謝 1章 呼吸と光合成	細胞内でのさまざまな化学反応によって生命活動が成り立っていることを理解し、そのために非常に多くの酵素が必要であることなどを理解する。 生命活動に必要なエネルギーの獲得にかかわる光合成と呼吸について学習する。
	第3回	第 3 部 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報とDNA 2章 遺伝情報の複製と分配	DNAが基本骨格を理解し、塩基配列が遺伝情報になっていることを理解する。 すべての細胞は核をもっており、体細胞分裂によってDNAが正確に複製されることを理解する。
後 期	第4回	3章 遺伝情報の発現	DNAの塩基配列がアミノ酸配列に置き換わり、アミノ酸が結合してタンパク質が合成されることを理解する。
		第 4 部 ヒトの体内環境の維持 1 章 体内での情報伝達と調節	体内環境＝体液であることを理解し、この環境を一定に保つために各器官が自律神経やホルモンによって調節されていることを理解する。
	第5回	2 章 体内環境の維持のしくみ	体内環境の調節として「血糖調節」を取り上げ、理解する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
保健体育		体育（体育）	3	家政科	2
教材・副教材		現代高等保健体育（大修館書店）			
科目の目標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○生涯にわたって運動、スポーツを継続していくために必要な技能・競技のルール・試合の進め方などを身につけることができる。 ○課題解決のために思考し、判断するとともに自己や仲間の考えたことを表現することができる。 ○仲間と競争や協働の経験を通して、互いに認め合い、高め合うことができる。 ※体育の見方・考え方とは、運動やスポーツをその価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の特性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。			
講座内容		※この授業は、通期、一斉授業です。 ○「体づくり運動」では、自己の体力や生活に応じて、体の調子をを整え体力の向上を図る。 ○「体育理論」では、体育・スポーツに関する知識を理解できるようにし、運動の合理的な実践及び健康の増進と体力の向上に活用することができる資質や能力を身につける。 ○選択制授業では、生徒一人ひとりに運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来るよう、また自分の能力・適性・興味・関心に応じた運動の行い方や楽しみ方や学び方を計画的に工夫する力をより一層育てる。 履修上の注意 本校規定の体操服（柔道着）、体育館シューズ、グラウンドシューズをきちんと着用し、指導教員の指示をよく聞いて、安全に留意して授業を受けること。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○情報を活用する力：chromebook や iPad などの ICT ツール等を活用し、スキルアップの方法や自己の運動課題を解決することができる。 ○対話し協働する力：グループ活動や自他の運動課題を解決する中で、よりよい活動、動きにするために、互いに意見や知恵を出し合い、対話が生まれ、協働した活動を行うことができる。 ○志高く挑戦する力：新体力テストにおいて自己最高記録を更新するために高い志をもち挑戦することができる。また、各スポーツで目標を決め、それに向かって新たな技術を獲得するために、様々な場面でチャレンジする力を育てることができる。 ○自律しやり抜く力：各スポーツで記録更新を目指したり、目標を決め、取り組んでいく中で、自律しやり抜く力を育てることができる。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	種目の特性やルール、試合の進め方等を理解し、実践することができる。また、各種目に必要な技能や体力を身につけ、努力を怠らず向上させることができる。	課題を発見し、話し合い活動へ積極的に関わったり、課題解決に向けた提案を行ったりすることができる。また、自己の考えを仲間に伝えることができる。	準備や片付け、グループや集団の中での協力・競争・協働など主体的かつ積極的に学びに向かうことができる。また、健康安全に留意しながら活動を行おうとする。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○スキルテスト ○授業観察 ○まとめプリント ○相互評価 など	○授業観察 ○まとめプリント（記述） ○相互評価 など	○授業観察 ○選択ノート ○まとめプリント ○相互評価 など	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前期		体づくり運動 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画	○様々な競技の特性に触れ、技能・競技のルール・試合の進め方などの知識を習得することができる。 ○仲間とともに課題解決に向けて思考し、自分の考えや思いを表現、伝えることができる。 ○授業中はグループ活動やチームでの活動も多く行うことから、仲間と競争や協働の経験を通して主体的かつ意欲的に活動を行う態度や人間力を身につけることができる。 ○生涯にわたって運動やスポーツを継続していきたいと思うような学習内容を多く取り入れて競技の特性や魅力に触れることができる。
		選択制授業前期 選択種目 柔道・ダンス・器械体操・陸上競技 卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール ソフトボール・テニス	
		ダンス 体づくり運動	
		選択制授業中期 選択種目 柔道・ダンス・器械体操・陸上競技 卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール ソフトボール・テニス	
後期			
		体育理論	
		選択制授業後期 選択種目 柔道・ダンス・器械体操・陸上競技 卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール サッカー・テニス	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
保健体育		保健（保健）	1	家政科	2
教材・副教材		現代高等保健体育（大修館書店） 図説現代高等保健（大修館書店）			
科目の目標		保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 ○生涯の各段階で健康課題が変化することを理解するとともに、健康が保持増進される仕組みなどの知識を身につけるとともに、日常生活の中に実践できる技能を身につけることができる。 ○健康課題の発見や課題解決に向けて思考、判断するとともに自らの考えを仲間に伝え、共有することができる。 ○生涯を通じて、自他の健康の保持増進に興味、関心を持ち、心身ともに健康的な人生を送ろうとする態度を養うことができる。 ※保健の見方・考え方とは、疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがい重視した健康に関する観点を踏まえ、個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。			
講座内容		※この授業は、通期、一斉授業です。 ○「生涯を通じる健康」では、思春期から中高年期までに出会う様々な健康問題について学ぶとともに、労働と健康との関係や、働く人々の健康が保持増進される仕組みなどについて学習する。 ○「健康を支える環境づくり」では、周囲の自然環境や食品に関する健康問題を学ぶとともに、社会の制度や保健活動といった社会環境のあり方について学習する。また、社会全体の健康を高めるために、私たち一人ひとりが環境づくりに積極的に参加する意義やその方法について学習する。 具体的な単元：「思春期と健康」「妊娠・出産と健康」「働くことと健康」 「環境と健康にかかわる対策」「食品衛生にかかわる活動」など ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：教科書だけにとらわれず、目の前で起こっている健康課題も学び、社会に出た際に活用できる知識を身に付ける。 ○情報を活用する力：グループでの調べ学習では、たくさんの情報から選択していく力が身につく。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	個人及び社会生活における健康・安全について理解し、その技能が身に付いている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目標や状況に応じて他者に伝えることができる力が身についている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える健康づくりを目指し、課題の解決に向けた学習づくりに主体的に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法		○定期考査 ○授業ノート・プリント ○小テスト ○授業観察 など	○授業ノート・プリント ○授業観察 ○課題学習における制作物や提出物など	○提出物 ○授業ノート・プリント ○授業観察 など	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第3回	○「生涯を通じる健康」 ライフステージと健康 思春期と健康 性意識と性行動の選択 妊娠・出産と健康 避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康 中高年期と健康 働くことと健康 労働災害と健康 健康的な職業生活	○各単元の基礎的な知識を理解し，自分の日常生活に生かそうとする力を養う。 ○保健は自分の日常生活に直結する学問であることを意識し，健康で安全な生活を送っていくための方策を思考し，グループの仲間と共有する力を身につける。 ○授業中は様々な健康課題について，グループ内で考え，仲間と積極的に課題解決に向けて取り組む姿勢が求められる。 ○できるだけ身近な話題に触れ，興味関心を高めようとする。
後期	第5回	○「健康を支える環境づくり」 大気汚染と健康 水質汚染，土壌汚染と健康 環境と健康にかかわる対策 ゴミの処理と上下水道の整備 食品の安全性 食品衛生にかかわる活動 保健サービスとその活用 医療サービスとその活用 医薬品の制度とその活用 さまざまな保健活動や社会的対策 健康に関する環境づくりと社会参加	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
芸術		音楽Ⅱ（音楽Ⅱ）	2	家政科	2
教材・副教材		MOUSA2（教育芸術社）			
科目の目標		音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。 ○曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 ○個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができる。 ○主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養うことができる。 ※音楽的な見方・考え方 感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること。			
講座内容		※この授業は、通期、選択授業です。 ○歌唱表現・器楽・創作において、それぞれに関する知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに創意工夫できるようにする。 ○鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価と根拠や音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりなどを理解し、音楽のよさや美しさを深く味わって聴くことができる。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで、幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。 ○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て、個別の感じ方や考え方等に応じながら創作する。 ○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え、言語化して相手に伝えることで、捉え方や考え方を深化させる。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりを理解し、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。表現携帯の特徴や表現上の効果を生かし、他者との調和を意識して演奏している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、関わりについて考えるとともに、どのように音楽をつくりあげるかについて独自の表現意図をもっている。	曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法		○授業態度の観察 ○振り返りシート ○小テスト	○授業態度の観察 ○鑑賞課題 ○振り返りシート	○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○鑑賞課題 ○振り返りシート	

年間指導計画			
期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前期		○歌唱	○発声練習に適した曲や親しみやすい曲を通して，発声などの技能を身に付けながら，表現を工夫して個性豊かに歌う。 ○各パートの役割を意識するとともに全体の響きや表現上の効果に留意しながら，表現を工夫して合唱する喜びを味わう。 ○曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解し，個性豊かに歌う。
		○器楽	○それぞれの楽器に親しみ，その音色や表現の特徴を味わうとともに，奏法を身に付け，音色や表現を工夫して個性豊かに演奏する。
○創作		○身近な曲の旋律をもとに音楽の形づくっている要素の働きを変えることで，曲のもつ表情や雰囲気を変化させ，個性豊かに変奏や編曲をする。	
○鑑賞		○さまざまな楽器が生み出す響きや時代背景がどのような要素やそれらの働きによってもたらされているのか関わりを探るとともに，音楽の良さや美しさを深く味わう。	

* 年間指導計画は予定であり，変更がある場合には，連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
芸術		美術Ⅱ（美術Ⅱ）	2	家政科	2
教材・副教材		美術 2(光村図書)			
科目の目標		美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す ○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。 ○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 ○主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 ※造形的な見方・考え方 感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことが考えられる。			
講座内容		※この授業は、通期、選択授業です。 ○アイディアスケッチ等を活用し、自分の考えや表現したいイメージをより深く追求したりしていく。 ○教科書に掲載されている作品を鑑賞し、その特徴や表現方法を学びながら、創造活動の幅を広げる。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで、幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。 ○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て、個別の感じ方や考え方等に応じながら創作する。 ○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え、言語化して相手に伝えることで、捉え方や考え方を深化させる。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	表現および鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方について理解を深めている。 教材や用具の特性を生かして、自分の意図に応じて表現方法を工夫し、創造活動を行うことができる。	アイディアスケッチで自分の思いや考えをまとめることができる。 授業を振り返り、感じたことや学んだことをまとめることができる。	他者の考え方を尊重しながら自分の意見や考えを持ち、作品に反映しようとしている。 感じたことや考えていることを自分の言葉でまとめている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○授業態度の観察 ○提出作品	○授業態度の観察 ○ワークシート ○振り返りシート ○アイディアスケッチ	○授業態度の観察 ○ワークシート ○振り返りシート ○アイディアスケッチ	

年間指導計画			
期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前期		ガイダンス	○美術Ⅱについての概要を知る。
		ブックポップを作ろう	○文字情報とイラストレーションのバランスや、余白の取り方などを理解し作品制作ができるようになる。
中期		アニメーション制作	○アニメーションの表現の特徴・制作方法について理解する。 ○自らでテーマを設定し、キャラクターの効果的な動きを考えながら表現する。
		○○ランドを作ろう	○様々な素材を加工し自分のイメージを表現する。 ○素材の選択、加工方法、制作手順など計画を練り制作させる。
後期			
		ポップアップカードを作ろう	○カードを送りたい相手を考え、相手をイメージしながら伝えたいメッセージを表現する。 ○飛び出すカードの特徴を理解し、技法を生かした表現をする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
芸術		書道Ⅱ（書道Ⅱ）	2	家政科	2
教材・副教材		書Ⅱ（教育図書）			
科目の目標		書道の創造的な諸活動を通して，書に関する見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の文字や書，書の伝統と深く関わる資質・能力を育成する。 ○楷書・行書・仮名の書の用筆法・運筆法を身につけ，それぞれの書体の持つ美しさを感じることができるようにする。 ○臨書で培った筆法により，創作の中で自分の心象風景を表現できるようにする。 ○古今の名作や他の生徒の作品を鑑賞する中で，書に関する見方・考え方を働かせ，自分の考えや感じたことを話せるようにする。 ○様々な書活動を通じて生涯にわたり書を愛好する心情を養う。 ※書に関する見方・考え方 書の特質に即して物事をとらえる視点や考え方で，感性を働かせ，書を，書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え，書かれた言葉，歴史的背景，生活や社会，諸文化などとの関わりから，書の表現の意味や価値を見いだすこと。			
講座内容		※この授業は，通期，選択授業です。 ○書道Ⅰの内容をふまえ，書写からより芸術的書道の内容に深く入っていく。 ○おもに創作を中心に書きたい語句を選択し，美しく表現した上で，作品として鑑賞できるよう，表具も仕上げる。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで，幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。 ○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て，個別の感じ方や考え方等に応じながら創作する。 ○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え，言語化して相手に伝えることで，捉え方や考え方を深化させる。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	書の表現の方法や形式，多様性などについて理解している。 書の伝統に基づき，効果的に表現するための技能を身に付け，表している。	書のよさや美しさを感じ，意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え，書の美を味わい深く捉えたりする。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○授業態度の観察 ○作品の評価	○授業態度の観察 ○作品の評価 ○鑑賞課題の点検	○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○鑑賞課題の点検	

年間指導計画			
期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期		楷書	○様々な楷書を比較することで表現の多様性を理解し、作品制作に活用することができるようにする。
		行書	○様々な行書を比較することで表現の多様性を理解し、作品制作に活用することができるようにする。
		漢字仮名交じりの書	○表現と用具・用材との関係を理解し、漢字と仮名の調和した線質の表し方、字形や文字の大きさと全体構成の表し方を工夫し、意図に基づく表現ができるようにする。
後 期		刻字	○漢字仮名交じりの書を立体化することによる刻線のよさや美しさを理解し、表現を工夫することができるようにする。
		写経	○用具・用材の特徴や扱い方、小筆の用筆法・運筆法を理解し表現できるようにする。
		仮名の書	○仮名の点画や線質の表し方と用筆法・運筆法を理解し表現できるようにする。 ○単体・連綿と全体の構成を考え、意図に基づく表現の構想と工夫ができるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
外国語		英語コミュニケーションⅡ（英語コミュニケーションⅡ）	3	家政科	2
教材・副教材		All Aboard English CommunicationⅡ（東京書籍） All Aboard English CommunicationⅡワークブック（東京書籍）			
科目の目標		外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、 ○必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 ○必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合うやり取りができる。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える文章を書くことができる。 ※外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方 外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面・状況に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。			
講座内容		※この授業は、通期、一斉授業です。 ○授業ではペアワーク・グループワークなどに積極的に取り組むとともに、スピーチなどでは他の意見を受容し、自らも積極的に表現します。 ○授業と同様に家庭学習も大切にします。学習したことを振り返り、課題などに取り組みます。 ○さまざまな題材を用いて英語による言語活動を行い、英語の学習を通じて、自らの力で考え、判断し、表現できる力を培います。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：様々な分野のリーディングやリスニングを通して、内容や背景に関する知識や教養を身につけ、世界の諸課題を知る。 ○論理的・批判的に思考する力：身につけた教養や知識をもとに、情報や他者の意見を論理的に解釈・分析し、自分の意見を整理する。 ○自分の考えを表現する力：ディベートやディスカッション、自由英作文などで、テーマに対して賛成・反対意見など自分の考えを英語で表現する。 ○志高く挑戦する力：身につけた教養や知識をもとに、英語資格検定などで、より上位の級の合格を目指す。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	各トピックの内容で使われる表現の意味やはたらきを理解している。 また、それぞれの表現について、その役割に応じて活用する技能を身につけている。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりしようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法		○定期考査 ○小テスト ○パフォーマンステスト	○定期考査 ○パフォーマンステスト	○提出物 ○小テスト ○授業態度の観察	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	Pre-Lesson My Plans for This Year 今年やってみたいこと Lesson 1 A Colorful Island ブラーノ島 関係代名詞 what Let's Listen 1 ホテルにチェックイン Communication 1 病院で診察	○英語を理解し、英語で表現する態度や能力を養う。 ○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高め、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。 ○授業中は英語力にかかわらず、ペア(グループ)ワークに英語を用いて意欲的かつ積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢が求められる。 ○分からない単語やフレーズについてはChromebookで調べ、次回必ず答えられるように徹底的に復習する。
	第2回	Lesson 2 With the Beatles サムのリクエスト 比較表限 Lesson 3 Wild Men ワイルドマンの世界 itの用法 文法のまとめ 1	
	第3回	Lesson 4 Little Hero ハチドリのしずく 間接疑問文 Let's Listen 2 世界自然遺産	
後期	第4回	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki 歌舞伎メイクの物語 to不定詞を含む表現 Reading 1 <i>Mujina</i> 文法のまとめ 2	
	第5回	Lesson 6 Seeds for Future Generations 伝統野菜を未来につなぐ 動詞の目的語になるif節	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭（専）		課題研究（課題研究）	2	家政科	2
教材・副教材		家庭科問題集 被服編（公共財団法人 全国高等学校家庭科教育振興会） 日本語ワープロ検定試験問題集（日本情報処理検定協会）			
科目の目標		家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上や、社会を支える生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。 ○生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ○課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 ※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 衣食住、保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生活の質の向上や社会の発展と関連付けること。			
講座内容		※この授業は、通期、一斉授業です。 家庭科技術検定被服製作（洋服）・（和服）・日本語ワープロ検定試験より、2つ選択し受検する。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○志高く挑戦する力：身につけた専門的な知識と技術をいかして、家庭科技術検定などでより上位の級の合格を目指すなど、挑戦する力を身につける。 ○専門的で高度な技術力：被服製作やワープロについて、自身の興味関心に基づいて選択することでより専門的な技術を身につける。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。	生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法		○実習内容 ○課題の点検 ○作品	○授業態度の観察 ○課題の点検	○授業態度の観察 ○課題の点検	

年間指導計画			
期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前期		シャツ・ブラウスの製作	○生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。 ○家庭科技術検定被服製作 2 級の合格を目指す。 シャツ・ブラウスの製作を通して、洋服の構成と製作に関する知識・技術を習得し、検定への取り組む態度を養う。 じんべいの製作を通して、和服の構成と製作に関する知識・技術を習得し、検定への取り組む態度を養う。 ○日本語ワープロ検定試験の合格を目指す。
		じんべいの製作	
後期		ワープロ（文書・速度）	
		シャツ・ブラウスの製作	
後期		じんべいの製作	
		ワープロ（文書・速度）	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭（専）		保育実践（保育実践）	4	家政科	2
教材・副教材		保育実践（実教出版） 保育実技児童文化財の魅力とその活用・展開（萌文書林）			
科目の目標		家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通じ、保育を担う職業人として必要な資質・能力を育む。 ○子供の表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ○保育や子育て支援に関する課題を発見し、子供を取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 ※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 衣食住、保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生活の質の向上や社会の発展と関連付けること。			
講座内容		※この授業は、通期、選択授業です。 ○子供の表現活動と保育に関連する知識・技術を学ぶ。 ○子育て支援と保育の充実に関する制度やこれからの子育て支援のあり方について学ぶ。 ○保育活動を主体的に計画し、実践することができる。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：子供の表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解する。 ○専門的で高度な技術力：授業で身につけた技術を活かして、家庭科技術検定の合格を目指す。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	子供の表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。	保育や子育て支援に関する課題を発見し、子供を取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決することができる。	保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○定期考査 ○確認テスト ○実技テスト ○作品	○定期考査 ○ワークシート ○振り返り	○ワークシート ○振り返り ○授業態度の観察	

年間指導計画			
期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第3回	子供の表現活動の面白さ	○保育における子供の表現活動の意義と重要性を理解する。 ○子供の表現活動に関連する技術が身につけ、工夫できるようになる。 ○子供の造形・描画表現が子供の創造性を育てる上で重要な活動であることを理解する。また、様々な素材を用いた壁面構成の技術を身につける ○子供の想像力と思考力を高める活動であることを理解し、言葉やイメージが豊かになるよう援助方法を知る。 ○エプロンシアターについて理解し、実際に作る。 ○音楽・身体表現の重要性を理解し、子供が音楽に親しみ、歌を歌ったり、リズム楽器を使ったりするなどの技術を身につける。
		造形表現活動	
		言語表現活動	
後期		音楽・身体表現活動	
	第4回	情報手段などを活用した活動	○テレビやビデオなど身近な事例を通じ、子供の発達や心身への影響を十分に考慮する大切さを理解し、情報手段を保育にどう活用できるかを考える。 ○表現活動に関わる内容を、保育や子育て支援の実践においてどう生かすことができるかを考える。 ○少子化や育児不安・孤立感など、子供と家族を取り巻く社会や環境の様々な変化に伴う諸問題から、子育て支援の意義と役割について理解する。
		表現活動の実際	
		子供・子育ての問題	
期	第5回	子育て支援のための各種施設	○身近な地域の子育て支援関連施設の役割について理解する。 ○具体的に各施設においてどのような支援を行っているかを理解する。 ○保育所や認定こども園など、保育施設に入所している子供の保護者を対象とする子育て支援の意義と役割について理解する。 ○各保育施設における活動を想定し、どういった活動ができるのか部分的な計画を作成することが出来る。
		子育て支援の実際	
		保育の活動計画	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭（専）		生活と福祉（生活と福祉）	2	家政科	2
教材・副教材		生活と福祉（実教出版） 生活と福祉 学習ノート（実教出版）			
科目の目標		家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○高齢者の健康と生活，介護などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。 ○高齢者の健康と生活，介護などに関する課題を発見し，高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○家族や地域の人々の豊かな生活の実現を目指して自ら学び，高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 ※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 衣食住，保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の伝承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，生活の質の向上や社会の発展と関連付けること。			
講座内容		※この授業は，通期，一斉授業です。 ○高齢者の健康と生活，介護などに関する知識・技術について学ぶ。 ○高齢者介護に必要な，ベッドメイキング・体位変換・車椅子の介助などの基本的な技術を学ぶ。 ○レクリエーションを主体的に計画し，実践する。 ○自立生活支援と福祉の充実に関する制度や介護のあり方について学ぶ。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：高齢者と福祉に関する知識や教養を身に付け，現代の社会的な課題を知る。 ○自律しやり抜く力：高齢者介護に関する実習を通して計画に従って主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身に付ける。 ○専門的で高度な技術力：エキスパートによる講義・実習指導を通して，専門的な知識技術を学ぶ。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	高齢者介護に関する基礎的・基本的な理論と技術を理解して，実践することができる。	高齢者介護に関する基礎的・基本的な理論と技術を活かして，身近な問題の解決する力を身に付けている。	高齢者介護について意欲的に学習し，実践においては計画に従って主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度・進度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	

年間指導計画			
期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第2回	○人の一生と生活・健康 健康の概念，ライフステージと健康管理 ○高齢化の現状と高齢者の特徴 高齢者の心身と特徴と病気 高齢者の生活課題と施策 ○介護・看護の実習，検温・脈拍測定 ベッドメイキング，口腔の清潔，体位交換	○高齢者介護と福祉に関する基礎的・基本的な理論と技術を身につけた上で，身近な問題や課題を多様な視点から捉え，主体的かつ協働的に問題解決にむけて取り組むことができることをねらいとする。
	第4回	○高齢化の現状と高齢者の特徴 高齢化の現状 ○高齢者の自立生活支援 自立生活支援の基本となる考え方 高齢者介護 ○レクリエーション実習 レクリエーションの意義と目的 レクリエーション実習 ○介護の実習 衣服の着脱の介護，身体の清潔の介護 車椅子の移乗・移動の介護，食事の介護	
後期	第5回	○高齢者支援の法律と制度 社会保障制度と高齢者福祉のあゆみ 介護保険制度 高齢者支援と地域包括ケアシステム ○介護の実習 排泄の介護 脱水，熱中症，糖尿病 応急手当，心肺蘇生法	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭（専）		住生活デザイン（住生活デザイン）	2	家政科	2
教材・副教材		リビングデザイン（実教出版）			
科目の目標		家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、豊住生活の実現を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○住生活と文化，住空間の構成と計画，インテリアデザインなどについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身につけようとする。 ○快適な住空間の計画やインテリアデザインに関する課題を発見し，豊かな住生活の実現を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○豊かな住生活の実現を目指して自ら学び，住空間のデザインに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 ※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 衣食住，保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の伝承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，生活の質の向上や社会の発展と関連付けること。			
講座内容		※この授業は，通期、選択授業です。 特徴的な住居様式や生活様式と住居とのかかわり，健康で安全な住環境など生活と住生活について学習する。さらに，動線，間取り，平面表示記号など住空間の形態と構成について基礎的な知識を習得し，住居の平面計画の実習，インテリアデザイン実習を行う。 ○生活と文化 ○住空間の構成と計画 ○インテリアデザイン ○福祉住環境と室内計画 ○住生活関連法規 ■<u>未来を拓く8つの力の育成場面</u> ○社会で生きる教養力：住居様式生活様式などの学習を通して，住生活を自分自身でデザインする知識・技能を身につける。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	住生活全般の基本的な知識を理解しているとともに，基礎的・基本的な技術を身に付けている。	住生活の現状から課題を発見し，よりよい住生活を実現させるために課題を創造的に解決する力を身に付けている。	住生活の充実向上を目指すために主体的に課題解決に取り組んだり，振り返って改善したりするとともに，実習では他者と協働的に取り組む態度を身に付けている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○定期考査 ○実習内容 ○作品完成度 ○調べ学習	○定期考査 ○ワークシート ○課題発表 ○レポート	○提出物 ○出席状況 ○ワークシート ○授業態度の観察	

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭（専）		ファッション造形（ファッション造形）	4	家政科	2
教材・副教材		ファッション造形（実教出版） 家庭科問題集 被服編			
科目の目標		家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通してファッション製品の創造的な製作を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○デザインや着用目的に応じたより高度なファッション造形について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ○ファッション造形に関する課題を発見し、ファッション製品製作を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○衣生活の充実向上と創造性豊かな作品の製作を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 ※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 衣食住、保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生活の質の向上や社会の発展と関連付けること。			
講座内容		※この授業は、通期、選択授業です。 ○立体裁断と平面製図の特徴や方法について基本的な知識・技術を学ぶ。 ○被服材料の種類や特徴を知り、適切な選択と取り扱いについて学ぶ。 ○セミタイトスカートや幼児服の製作を通して、洋服の製作に関する理論と技術を学ぶ。 ○ファッションを表現する課程を具体的な作品製作を通して学ぶ。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：被服製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を理解して、製作する。 ○自律しやり抜く力：衣生活の充実向上と創造性豊かな作品の製作を目指して自ら学び、実践においては計画に従って主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身に付ける。 ○専門的で高度な技術力：デザインや着用目的に応じたより高度なファッション造形について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	被服製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を理解して、製作することができる。	被服製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を活かして、製作に向けて考察している。	被服製作において計画に従って主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度・進度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	

年間指導計画			
期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第2回	採寸 製図の書き方（文化式） 裏付きスカート製作 裁断・印付け 縫製 ・ファスナー	○被服製作を通じて、製作の用途に適した被服材料の適切な選択と製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を身につけ、計画に従って能率的に、主体的かつ協働的に取り組むことができることを目指す。
		女兒服のデザイン選定 女兒服の製作（かこみ製図） 裁断・印付け 縫製 ・ギャザー	
後期	第4回	ピンワーク講習会 ワンピースの製作製図 裁断・印付け	
	第5回	縫製 部分縫い ・コンシールファスナー 作品の演出方法	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭（専）		フードデザイン（フードデザイン）	2	家政科	2
教材・副教材		フードデザイン 新訂版（実教出版） Super Live View 家庭科 資料＋食品成分表（東京書籍） 家庭科問題集 食物編（全国高等学校家庭科教育振興会）			
科目の目標		家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 ○食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 ※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 衣食住、保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生活の質の向上や社会の発展と関連付けること。			
講座内容		この授業は、通期、一斉授業です。 ○栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートに関する分野を学習し、食事を総合的にデザインする能力・態度を身につける。 ○調理実習については、日常食の献立に加え、供応食・行事食の調理を中心に学ぶ。 ○家庭科技術検定食物調理技術２級を受験する。 ■<u>未来を拓く８つの力の育成場面</u> ○志高く挑戦する力：身につけた専門的な知識と技術をいかして、家庭科技術検定などでより上位の級の合格を目指すなど、挑戦する力を身につける。 ○専門的で高度な技術力：栄養や食品に限らず、献立作成、テーブルコーディネートなどの実践的かつ専門的な技術を身につける。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く８つの力との関連		社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	栄養や食品、調理などの食生活全般の基本的な知識を理解しているとともに、基礎的・基本的な調理技術を身に付けている。	食生活の現状から課題を発見し、よりよい食生活を実現させるために課題を創造的に解決する力を身に付けている。	食生活の充実向上を目指すために主体的に課題解決に取り組んだり、振り返って改善したりするとともに、実習では他者と協働的に取り組む態度を身に付けている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○定期考査 ○実習内容	○定期考査 ○ワークシート	○提出物 ○ワークシート ○授業態度の観察	

年間指導計画			
期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	食の衛生と安全 調理実習① 調理実習②	○ 1 年次に身につけた知識・技術を活用し，食生活の課題に対して，合理的かつ創造的に解決する力を養うとともに，食生活の総合的なデザインに主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
	第2回	消化吸収 社会人講師(日本料理) 調理実習③ 調理実習④	
	第3回	コンクール応募 調理実習⑤ 食物調理 2 級検定説明 献立作成・筆記対策	
後 期	第4回	食物調理 2 級検定 献立作成・筆記対策 調理実習⑥ 調理実習⑦ テーブルコーディネート 食物2級実技試験	
	第5回	家政科展準備 調理実習⑧ 社会人講師（テーブルコーディネート）	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭（専）		食品（食品）	4	家政科	2
教材・副教材		食品と栄養の特性（社団法人 全国調理師養成施設協議会）			
科目の目標		家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、多様化する食品を適切に選択、活用して食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○食品の分類とその特徴、食品の機能、食品の表示、食品の加工と貯蔵などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとする。 ○食生活の現状から食品に関する課題を発見し、食品を適切に選択、活用して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○適切な食品の選択や活用の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、食品のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 ※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 衣食住、保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生活の質の向上や社会の発展と関連付けること。			
講座内容		※この授業は、通期、選択授業です。 ○代表的な食品の栄養的特徴、調理上の性質、利用法などについて実習・実験をとおして学習する。 ○食品の加工については、目的、方法、成分の変化を、食品の貯蔵については、代表的な貯蔵の方法の原理と特徴の概要を学習する。 ○食品を使用したコンクールやコンテストに応募する。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：食品の特徴や調理理論などの幅広い専門的な知識や教養を身につける。 ○専門的で高度な技術力：様々な食品を用いた実験や食品加工などを行い高度な技術を身につける。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	食品の分類とその特徴、食品の機能、食品の表示、食品の加工と貯蔵などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	食生活の現状から食品に関する課題を発見し、食品を適切に選択、活用して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	適切な食品の選択や活用の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、食品のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○定期考査 ○実習内容	○定期考査 ○ワークシート	○提出物 ○ワークシート ○授業態度の観察	

年間指導計画			
期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	食品学とは 穀類 いも及びでん粉類 砂糖及び甘味類	○食品の特徴や機能，表示について実習・実験を通して体系的・系統的に理解し，関連する技術を身に付けるとともに，適切な食品の選択や活用の面から食生活の充実向上を目指して自ら学ぶ態度を養う。
	第2回	豆類 種実類 野菜類 果物類	
	第3回	コンクール作品応募 コンテスト作品応募 きのこ類 藻類	
後 期	第4回	魚介類 肉類 卵類 家政科展準備	
	第5回	乳類 油脂類 香辛料 食品の表示	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭（専）		和服と伝統文化（和服と伝統文化）	2	家政科	2
教材・副教材		ファッション造形基礎（実教出版） 家庭科問題集 被服編			
科目の目標		日本の伝統文化である和服を中心に日本文化に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、日本の伝統文化の伝承と創造に主体的に取り組む能力と実践的な態度を育てる。また、和服の用途と社会生活上のマナー、和服の着付けについても学び、実社会の中で活用できる能力を身につけさせる。 家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(2)生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。(3)職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
講座内容		※この授業は、通期、一斉授業です。 日本の伝統文化である和服を、ひとえ長着の製作実習や着付けなど通じて体験的に理解し実践できるように習得する。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：和服の変遷を知り、被服と文化の関係、人間の生活と被服とのかかわりについて学び、日本文化への理解を深める ○自律しやり抜く力：和服と伝統文化について意欲的に学習し、実践においては計画に従って主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身につける。 ○専門的で高度な技術力：ひとえ長着・半幅帯の製作を通して和裁の基礎的な技術を身につける。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	和服の変遷を知り、被服と文化の関係、人間の生活と被服とのかかわりについて正しく理解している。 和裁の基礎的な技術を身につけることができる。	社会生活上の着装のマナーを知り身に付けている。	和服と伝統文化について意欲的に学習し、実践においては計画に従って主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度・進度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	

年間指導計画			
期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第2回	○和服文化 和服の変遷について 和服と文化の関係 ○ひとえ長着の製作 構成と名称 ひとえ長着の特徴と材料の選択 見積もり 裁断方法 袖作り 背縫い くりこし揚げ ○ゆかたデザイン（夏季休業中課題）	○和服と伝統文化に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけた上で、主体的かつ計画的に実習に取り組み、身につけた知識や技術を組み合わせながら多様な視点から創意工夫する姿勢を身につけることをねらいとする。
	第4回	○ひとえ長着の製作 肩当てつけ わき縫い すそぐけ えりつけ そでつけ ○半幅帯の製作 帯の特徴と材料の選択 裁断 縫製	
後期	第5回	○和服の着装 和服の種類と用途 着付け講習会 ○日本の伝統的な服飾文化 伝統的な手法を用いた作品の製作 ○ひな人形製作所訪問	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
福祉(専)		社会福祉基礎（社会福祉基礎）	2	家政科	2
教材・副教材		実教出版「社会福祉基礎」			
科目の目標		福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会福祉の向上に必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○社会福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 ○社会福祉の展望に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ○健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、社会福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 ※福祉の見方・考え方 生活に関する事象を、当事者の考えや状況、環境の継続性に着目して捉え、人間としての尊厳の保持と自立を目指して、適切かつ効果的な社会福祉に関連付けること。			
講座内容		この授業は、通期、選択授業です。 ○現代社会と社会福祉のかかわり、社会福祉の理念と意義について理解する。 ○欧米諸国や日本の社会福祉の歴史について学習する。 ○社会福祉分野の現状と課題について学習する。 主な項目：公的扶助の現状と課題，児童家庭福祉の現状と課題，障害者福祉の現状と課題，地域福祉の現状と課題 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○情報を活用する力：常に新しい情報を入手し、よりよい生活や支援の提供について考える活動を通して情報を適切に活用する力を身につける。 ○対話し協働する力：社会福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	福祉に関する基礎的・基本的な理論と技術を理解して、実践することができる。	福祉に関する基礎的・基本的な理論と技術を活かして、身近な問題の解決する力を身に付けている。	福祉について意欲的に学習し、実践においては計画に従って主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法		○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度・進度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	

年間指導計画			
期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第2回	社会福祉の理念と意義	○日常生活と福祉との関わり，社会福祉理念の変遷など社会福祉に関する基礎的な学習活動を通して，社会福祉の理念や意義，尊厳の保持や自立支援など理解できるようにするとともに，働くことの意義や役割，職業人に求められる倫理観を育成する。 ○諸外国や日本の社会福祉思想の歴史的変遷についての学習活動を通し，社会福祉思想の流れとその関連性，地域共生社会の実現に向けた地域福祉の意義や役割について理解できるようにする。
		社会福祉の歴史と次代の展望	
後期	第4回	生活を支える社会福祉・社会保障制度 調べ学習	○社会保障の基本的な仕組みや社会福祉の各分野が生まれてきた社会背景や概要などに関する学習活動を通して，各制度の意義や役割，現状と課題について理解できる。 ○人間関係を構築するための技法，基本的なコミュニケーションの技法，社会福祉援助活動の概要に関する学習活動を通し，人間関係の形成やコミュニケーション及び社会福祉援助活動の意義や役割などとともに，援助活動に必要なリーダーシップなどのについても理解できるようにする。
		人間関係とコミュニケーション	
	第5回	地域福祉の進展と多様な社会福祉支援制度	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名		科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
英語		エッセイライティングⅠ（エッセイライティングⅠ）	2	家政科	2
教材・副教材		Logical English Reading Level 1（三省堂）			
科目の目標		英語学習の特質を踏まえ、書くことの領域において設定する目標の実現を目指した指導を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。 （１）書くこと ア 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。			
講座内容		※この授業は、通期、選択授業です。 ○日常的话题について、必要に応じて、言語材料や文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、英語を聞いたり読んだりして、論点を整理した上で、それらを活用して情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。 ○社会的な話題について、必要に応じて、言語材料や文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、英語を聞いたり読んだりして、論点を整理した上で、それらを活用して意見や主張などを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：様々な分野のリーディングやリスニングを通して、内容や背景に関する知識や教養を身につけ、世界の諸課題を知る。 ○論理的・批判的に思考する力：身につけた教養や知識をもとに、情報や他者の意見を論理的に解釈・分析し、自分の意見を整理する。 ○自分の考えを表現する力：ディベートやディスカッション、自由英作文などで、テーマに対して賛成・反対意見など自分の考えを英語で表現する。 ○志高く挑戦する力：身につけた教養や知識をもとに、英語資格検定などでより上位の級の合格を目指す。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	自分の意見を、論理の構成や展開を工夫して書いて伝えるために必要となる語句や表現を理解している。	日常的话题や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して書いて伝えている。	日常的话题や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して書いて伝えようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法		○パフォーマンステスト ○小テスト	○パフォーマンステスト	○小テスト ○提出物 ○授業態度の観察	

年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	01 Should homework be banned? 02 Should smartphones be banned in schools ?	○自分の意見を，論理の構成や展開を工夫して書いて伝えるために必要となる語句や表現を正しく理解させる。 ○日常的な話題や社会的な話題について，情報や考え，気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して書いて伝えることができる力を養う。 ○授業中はペアやグループでの活動において，英語で意欲的かつ積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を養う。
	第2回	03 Should high school students be allowed? 04 Should national and public colleges be free?	
	第3回	05 Should all Internet users use their real names on social media? 06 Do online games do more harm than good?	
後期	第4回	07 Is online education better than offline education ?	
	第5回	08 Should Japanese high school students Study abroad?	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

総合的な探究の時間『方谷学』		単位数	学科	年次
		2	家政科	2
教材・副教材		『locus Program 探究型ケーススタディ編 1』（株式会社マイナビ高校支援統括本部）		
目 標		探究の見方・考え方を働かせ、高梁地域で育ち学んできた自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し、解決に向けた主体的・協働的な試みを通して、以下の資質・能力を育成する。 （１）探究の過程において、課題の発見・解決に必要な知識・技能を身に付けたいと、地域や社会にととの課題が何かを明確に意識し、その解決に向けた方策を考え実行する試みを通じて、探究活動の意義や価値を理解できる。 （２）自己と地域・社会との関係性を考える中で、課題となる問いを発見・設定し、課題解決に必要な情報の収集・整理・分析を行い、より適切な形でまとめ・表現ができる。 （３）探究に主体的・協働的に取り組み、共に活動する仲間同士で互いの長所を引き出し合いながら、また関係する人物・地域・組織などとの間で良い影響を与え合いながら、新たな価値の創造やよりよい未来社会の実現をめざす態度を身に付け、自らの進路実現に生かすことができる。		
講座内容		※この授業は、通期、一斉授業です。 ○世界・日本・地域の各水準で鋭く課題を把握する視点を涵養する。 ○グローバルな視点で高梁地域の課題を解決する方法を模索する。 ○構想した課題解決案を広く地域・社会に向けて提案する。 ○探究活動のプロセスをまとめ、進路実現に活用する。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○情報を活用する能力：多様なツールを用いて収集した情報を、探究活動に活用するため分析し整理する力を育てる。 ○論理的・批判的に思考する力：課題の解決のために収集した情報の正確性を検討したり、情報が課題解決にどのように資するか評価したりする力を育てる。 ○自分の考えを表現する力：自分が他者に伝えたいことは何かを整序し、適切な言語表現や論理的な構成に注意して、他者の理解・共感を得られるよう説明できる力を育てる。 ○対話し協働する力：グループ活動において自身の役割を意識して活動するとともに、関係する人物・地域・組織とも良い影響を及ぼし合い、より良い成果を周囲や社会にもたらそうとする態度を育てる。 ○自律しやり抜く力：自ら設定した課題に対し、責任感を持って探究のサイクルと試行錯誤を繰り返し、考えをまとめるに至るまで走り抜く力を育てる。		
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力 専門的で高度な技術	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 高い志で挑戦する力 自律しやり抜く力
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	地域の魅力や課題を把握し、その解決に向けた活動計画の立て方について理解している。	課題の解決のために収集した情報について多角的・多面的な視点から比較・分析し、その結果をまとめて表現している。	グループ学習において役割を積極的に担い、協働して解決に向けた探究に取り組もうとしている。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
評価方法		振り返りシート 制作物	振り返りシート 制作物	振り返りシート 制作物

年間指導計画			
期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前期		☆探究活動（１） 課題に対する情報収集や予備実験等を行う。	●課題に関する情報収集とその整理・分析を進める。 ●外部機関との連携や予備実験を行い，設定した課題の精選を行う。 ●グループ活動の特性を生かし，役割分担を行い，協働的，効率的に進める。
		☆探究活動（２） 情報収集、予備実験から分かったこと等をまとめ、中間発表を行う。	●探究活動についての進捗状況について，分野ごとに報告を行う。 ●生徒による相互評価を行い，内容面・発表面の修正を進める動機づけとする。探究サポーターやその他の外部人材，指導担当教員から指導・助言を受ける。
		☆探究活動（３） 中間発表で得られた修正点について，情報収集や予備実験を再度行う。得られた情報を整理・分析しまとめる。	●課題に対する新たな疑問点を精査し，再度情報収集，予備実験等を行う。 ●調査，実験結果で得られた情報を整理・分析を行い，プレゼンテーションにまとめる。
後期		☆探究活動 プロジェクト最終発表 調査，実験等で得られた情報をもとに考えられた課題解決の方法について発表を行う。 成果発表会 １，２年次生，外部人材に対して発表を行う。 探究活動の振り返り 分野毎に探究活動の振り返りを行う。	●分野毎に班別の発表を行う。指導担当者，探究サポーター、外部人材から指導・助言を受け，代表班を決定する。 ●各分野の代表班は全体発表を行い，その他の班はポスター発表を行う。下級生や教員，外部人材から広く発表を評価してもらう。 ●探究活動を通して学んだことや成長したことをまとめ，今後の進路選択等に活かす。
		☆自己表現活動 志望理由書を書こう 小論文を書こう	●探究活動を通して感じたことや学びを参考に，それぞれの希望進路に応じ，志望理由書を作成する。 ●小論文の書き方を学び，小論文を書く。

* 年間指導計画は予定であり，変更がある場合には，連絡します。

特別活動		単位数	学科	年次
		3	普通科・家政科	1～3
目 標		集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。 (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。 (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。 ※集団や社会の形成者としての見方・考え方 特別活動と各教科等とが往還的な関係にあることを踏まえて、各教科等における見方・考え方を総合的に働かせて、集団や社会における問題を自分のこととして捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付ける。		
学習活動		自ら狙いを持って体験し、考えて得た経験を積み重ねていく。体験を経験に代える主体的な学び。 特別活動は、その重要な場や機会として、学校教育における望ましい集団活動や体験的な活動を通して、実際の社会で生きて働く社会性を身に付けるなど、人間関係形成能力を育む。 ■ホームルーム活動 (1)ホームルームや学校における生活づくりへの参画 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3)一人一人のキャリア形成と自己実現 ■ 生徒会活動 (1)生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営 (2) 学校行事への協力 (3)ボランティア活動などの社会参画 ■ 学校行事 (1)儀式的行事 (2)文化的行事 (3)健康安全・体育的行事 (4)旅行・集団宿泊的行事 (5)勤労生産・奉仕的行事 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○対話し協働する力：様々な行事や活動を通じて、意見を交換し、議論を行い、役割分担を行うことで、自分の意見を明確に表現し、他者と対話し、チームとして協働するスキルを身に付ける。 ○志高く挑戦する力：様々な行事や活動を通じて、自らの創造性や表現力を試し、目標達成に向けて自身の限界に挑戦し、様々な課題に立ち向かいながら、自らの力を試す。 ○自律しやり抜く力：様々な行事や活動を通じて、自己管理や目標設定の経験を積み、課題に取り組むことで、最後まで諦めず、やり抜く力身に付ける。		
評価の観点		よりよい人間関係を築くための知識・技能	集団や社会に参画する者としての思考・判断・表現	主体的に役割や責任を果たし、他者と協力してやり抜こうとする態度
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力 専門的で高度な技術	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義を理解するとともに、よりよい生活を構築するための対話の方法や他者を受容する力を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活をより良くするため、問題を発見し、解決に向けて合意形成したり意思決定したりできる。	集団生活において自主的に自己の役割や責任を果たす中で、主体的に人間としての在り方・生き方について考えを深め、現在及び将来の生活をより良くしようとしている。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
評価方法		○行動観察 ○振り返りシート ○自己評価	○行動観察 ○振り返りシート ○自己評価	○行動観察 ○振り返りシート ○自己評価

年間指導計画					
領 域	活 動 内 容	1 年 次	2 年 次	3 年 次	備 考
ホームルーム活動	松山城登山	○			
	百人一首大会	○			
	修学旅行準備		○		
	レクリエーション	○	○		
	松籟祭準備	○	○	○	
	読書会	○	○	○	
	進路 LHR (進路集会)	○	○	○	
	科目選択(文理選択)	○			
	主権者教育		○		
	租税教室		○		
	人権教育 LHR	○	○	○	
	人権教育講演会	○	○	○	
	心と命の講演会	○	○	○	
	薬物乱用防止教室	○	○	○	
	探究活動	○	○	○	
生徒会活動	生徒総会	○	○	○	
	生徒会役員選挙	○	○	○	
	各種委員会活動	○	○	○	
	松籟祭ブロック結団式	○	○	○	
	夏季・秋季オープンスクール	○	○	○	
学校行事	入学式・卒業式	○	○	○	
	始業式・終業式・休業前集会	○	○	○	
	身体計測	○	○	○	
	球技大会	○	○	○	
	社会貢献活動	○	○	○	
	防災訓練	○	○	○	
	松籟祭(文化祭)	○	○	○	
	松籟祭(体育大会)	○	○	○	
	修学旅行		○		
	創立記念式・芸術鑑賞	○	○	○	
	家政科展	○	○	○	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。